

朝日小学校 7月研修会

- 1 日時 平成28年 7月19日(火) 11時35分～12時20分
7月20日(水) 11時15分～16時40分
- 2 場所 旭川市立朝日小学校
研究授業 4年1組 国語「自分の考えを伝えるには」 4年1組教室
研究授業 1学年音楽「どれみでうたったり、ふいたりしよう」 音楽室
研究授業 5年1組 社会「米づくりのさかんな地域」
研究協議 図書室
- 3 参加者 講師 北海道教育委員会上川教育局 指導主事 石山 輝
旭川市教育委員会教育指導課 主査 常盤 慎一
朝日小学校 中山 玉井 櫻井 北島 木村 町田 他全職員
青雲小学校 貝谷
新町小学校 亀掛川
永山西小学校 須賀 小林
近文小学校 三浦 長瀬
大有小学校 石川

4 概要

- (1) 4年1組 国語「自分の考えを伝えるには」
「より主体的に学ぶ工夫」～アクティブ化シートA
＜③意図的な関わりや手立ての工夫＞

本単元では、意見文で「3年生とみんな遊びをしよう」という単元を貫く言語活動を取り入れた。単元の目標に身近な話題を取り入れることで、目的意識をもって活動に取り組むことをねらいとした。また、単元の指導計画の中で児童の思考をより深めるため、個人・全体・グループといった学習形態を取り入れた。前半のグループ学習では、同じ意見(遊び)を主張する友達の理由付けに触れることで、新たな考えを発見したり、思考が深まったり広がったりしていくことをねらいとしている。フィッシュボーンを活用することで思考を見える化し、グループで共有する。後半のグループ学習では、同じ意見でも、文章構成によって相手への伝わり方が違うことに気付かせ、より「自分の考えを明確に伝える」ことへの理解を深まらせることをねらいとした。



授業の様子から

文章構成等の工夫について4つのポイント「理由、段落、接続詞、自分の経験」を基に、構想メモ(フィッシュボーン)へ自分の意見を整理して、作文を書いた。



本時は、同じ遊びを考えた者同士でグループとなり、はっきり意見が伝わる意見文を選ぶことで、文章構成のポイントへの理解を深め、推敲へ生かすための時間であった。指導者の予想以上に子どもたちの作文が、文章構成を意識した分かりやすい主張の出来映えとなっていたため、工夫のポイントはどの意見文もほぼ満足の状態だった。更に深い学びへの工夫が必要であった。

(2) 1年生 音楽「どれみでうたったり、ふいたりしよう」

「より主体的に学ぶ工夫」～アクティブ化シートB-①

＜強い課題意識をもたせる工夫＞

「弾き方のポイントを全体で確認することで、運指を守って弾こうとする意欲を高める。」

児童は、前時まで、「どれみであいさつ」の曲を通して、どれみの音色や運指、鍵盤ハーモニカのどれみの位置を学習している。導入場面で、「どれみであいさつ」が弾けるようになったことを、褒め励ます声掛けをすることで、展開場面の「どれみのまねっこあそび」に対する意欲が高まると考える。

また、どは、1の指(親指)、れは、2の指(人差し指)、みは、3の指(中指)という、運指を守ることの大切さを全体で確認してから授業を進めていくことで、ミスタッチに気を付けようとすることや音が切れないようにすること(タンギング)に気付き、課題に対する意欲が高まると考える。



授業の様子から

どれみであいさつ(ドレミミレド)が演奏できるようになった子どもたちに、①指の番号②タンギング③姿勢の「きれいな音」になるためのポイントを確認し、「どれみのまねっこあそび」として3人グループで、ドレミの3つの音を順番に偶然並べたものお互いにアドバイスし合いながら練習した。

その後、発表会では全ての児童がミスタッチなしに、きれいに3つの音を演奏することができていた。

本時の技能については、前時までの段階でほぼすべての児童が十分満足できる状況であった。

国語の授業同様に、より深い学びとして「技能」のまま深めるのがよいのか「音楽表現の創意工夫」として発展させるのがよいのかなどについて授業後に話題となった。

(3) 5年1組 社会「米づくりのさかんな地域」

「より協働的に深く学ぶ工夫」～アクティブ化シートB-③

＜④既習知識の活用・応用場面の工夫～「これからの米づくりについて提案する」＞

これまでに児童は、庄内平野で行われる米づくりの特色についてまとめ、前時には、「日本の米づくりを取り巻く諸問題」について知り、これからの米づくりについて強い危機感を感じている。本時では、気になっている問題ごとのグループで、これからの米づくりの行方について、現在の状況から考えられる予想を交流させる。また、それら諸問題を解決していくためにはどのような対策が必要なのかについて、全体で交流させる。どちらにおいても、既習の知識や資料を根拠として説明させるとともに、仲間の考えについて吟味する意識をもたせることで、既習知識を活用・応用できると考えた。



授業の様子から

単元の最終場面で、日本の米作りの現状を庄内平野の米作りを通して学んできた子どもたち。前時での教科書のグラフの読み取りを基に、日本の米作りが抱える①後継者不足②米の消費量減少について新たな課題意識をもって本時に望んだ。

最初に気になっている問題ごとにグループでその問題が続くと将来どうなるのか予想した。次に、現在取り組まれている対策について教科書の5つの対策を基に、どの対策が効果的か理由も考え、ノートに記入した。

なぜその取り組みが必要か交流し、米の消費量を伸ばすことや後継者育成など様々な取組についてどちらも関連していることに気付かせる展開であった。

後半に時間が不足してしまい、学びのまとめ記入の時間が短くなってしまったことが残念であった。

(4) 研究協議

参加者が各授業で見付けたよさや改善点をピンクと水色の付箋に記入したものを各授業ごとのシートに張り付けてから研究協議をスタートさせた。

まずは、国語、音楽、社会の3グループに分かれて付箋に書かれた意見や感想を基に、今回のアクティブ・ラーニングの視点を取り入れは効果的であったのかについて協議した。

次に、各授業者が、協議内容を基に、成果と改善の方向について発表し、全体から意見をもらうという進め方であった。

今回の改善意見を基に、各指導案の改善案も含めた「指導案－研究協議－改善案」のセットで研究集録へ掲載する予定となっている。



(5) 助言内容から

○大切なこと～目標・ねらいを達成すること

⇒より効果的な指導としてアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善

○子どもの予想以上の成長が見られる場合～実態とのギャップ、見取りの大切さ

⇒毎時間の変容をしっかりと見取ることの大切さ

○協働的な学びではあるが「個の時間」も大切

○アクティブ・ラーニング視点の研究だからこそ、様々の教科について学べる。

授業に絶対はないので、不断の授業改善が必要。

○「深い学び」の視点に基づく授業改善は、各教科の特質に応じて示されるのでは？

○授業でしっかりと資質・能力を身に付けていくことが大切。

○主体的な学びは、単元全体を指導計画レベルで、見通しと振り返りを大切にしたい。